

第1回「京のジュニアスポーツアカデミー構想検討会議」

1 日時 令和6年1月18日(木)午後1時～2時40分

2 場所 京都テルサ東館2階 第9会議室 (web 併用)

3 出席者 山本座長、川合委員、川崎委員、北村委員、國府委員、柴田委員、相馬委員、田中委員、田原委員、堤委員、中嶋委員、丹羽委員、森永委員、脇坂委員 (以上14名)

4 概要

- ・子どもたちがやりたいスポーツに取り組める環境づくりについての府の取組状況の説明を行った。
- ・子どもたちのスポーツ環境の現状や理想像について意見交換を行った。

5 委員からの主な意見

○勝利至上主義のみならず、楽しめるスポーツができる環境の構築も必要。検討の視点として、例えば市町村単体では部活動に携わりたいと考えている教員や地域の指導者と楽しくやるスポーツを実施、広域では競技団体やプロチーム、大学等と連携した組織づくりを進めるなどエリアを分けて考えるべき。

○子供たちが住んでいる地域でやりたいスポーツに触れられるようにしたい。その解決策の一つとして部活動の地域移行を円滑に進める取り組みがあるとともに、知事部局としても、プロスポーツやスポーツ競技団体等の民間の力を借りながら、部活動の地域移行では救えない部分について、取り組んでいきたい。

○サッカーにおいて、トップを目指す子どもは地域のクラブチームに入る傾向があるが、経済的な理由でサッカーを選べない子どもがいてはならず、その環境づくりをしていくべき。地域ごとに特色があるため、京都という地域にあった施策を展開していくべき。

○部活動は、以前は学習指導要領上必修であったが現行は教育課程外に位置づけられ、本市では推奨している。地域移行の問題点としては、①指導者の確保と資質、②費用負担や場所の確保、③部活動と学校教育活動を両立させるためのスケジュール調整。できることからやっていかないと進まない。

○地域でサッカー教室を行なった際、地域のクラブから、人材や場所の確保が難しいとの話をよく聞く。民間では、場所の確保・整備などハード面からのサポートは難しいが、スポーツをすることの素晴らしさやその価値を伝えていくため、地域の実情に応じてソフト面から協力することは可能であると考えており、そのための対策を一緒に検討していきたい。

○トップを目指す子ども、そうでない子どももスポーツに親しむ環境づくりが鍵だと考えている。子どもたちや指導者の人材等、府内においても条件が異なるなか、子どもたちがスポーツを親しむにはどのような環境づくりが必要なのかについてこの会議で検討したい。

- 中体連等に出て競技力の向上を目指すスポーツと広く楽しめるスポーツとでは目指す方向も異なるなか、この会議でどのような環境づくりが必要となるかを検討していきたい。ハンナリーズの教室では、勝敗にこだわらない大会も取り入れており手ごたえを感じている。
- 文化部活動の移行に向けた文化庁の実証事業として、民間の楽団と連携した取組を進めている。行政主体ではなく民間事業者が楽団の運営主体であるため、実証事業終了後の運営費に係る課題（現在は運営費に対して実証事業の委託金収入に頼る部分が多い）がある。子どもたちの多様な活動を支えることを目的として部活動の地域移行を進めることにより、その相乗効果として教員の働き方改革にもつながればよい。
- 近年、クラブチームも参加できる大会が増加しており、さらに上を目指す地域クラブができると地域の活性化にもつながると考える。「チャレンジ」と「楽しむ」の二方面の環境整備をお願いしたい。また、指導者の資質の確保や、国際大会など間近に見る機会の創出に向けたアリーナの整備が必要。
- 土日等も部活動に携わりたい教員は一定数いるにもかかわらず、教員の働き方改革を一概に進めると、指導者確保の機会を逸失することにもなり、子ども、保護者、教員にとってメリットがない。
- 全国大会などに遠征する際には、市町の部活動は補助されるが、地域クラブには補助金が出ない状況が生じており、時間とお金に余裕のある家庭しか地域クラブには所属できなくなるなど、子どもたちスポーツ環境が危惧される。
- 保護者の立場で言えば、送迎など学校のクラブをするだけでも金銭的な問題があり、親の負担も大きい。指導力は先生によって異なるため、指導者の資質が重要であると感じる。指導者の資質は、指導力のみならず、子どもとの信頼関係の作り方や人格形成などにも表れる。
- 多くの学校で生徒数の減少に伴い、教職員の定数減が進んでいる。部員の減少以前に部活動の数に対応できる顧問が減少し、その結果、部活動を存続できない状況。小学生は、地域スポーツが盛んであるが、中学生は部活動以外の地域における競技環境が乏しい。
- 小学生の地域クラブでは保護者も関わりが多いが、部活動に入ると保護者とのつながりが途切れる印象。保護者も指導力がある方は、何かしらの形で関わるなど、地域全体で持続可能な環境づくりを構築したい。
- 行政や競技団体、プロチームなどの各団体が枠を越え初めて一堂に会し、こうした議論を開始したことは意義深い。これまでは学校や競技団体等がそれぞれの枠の中で取り組んできたが、相互にメリットのある形で全体として取り組むべき課題である。
- 地域や種目によっても状況が異なる。どのように課題を浮き彫りにしていくかが難しい。次回以降は論点を整理の上で、テーマを絞って意見交換したい。
次回までに、京都府地域クラブ活動推進検討委員会の資料を提供してほしい。